

長崎女子短大での15年間の研究の成果

松 尾 公 則

Findings from Fifteen Years of Research at Nagasaki Women's Junior College

Takanori MATSUO

長崎女子短期大学紀要 第51号 令和7年度 別刷

Reprinted form

Nagasaki Women's Junior College Annual Report of Studies, 51 : 76 - 81

2026

研究報告

長崎女子短大での15年間の研究の成果

松 尾 公 則

Findings from Fifteen Years of Research at Nagasaki Women's Junior College

Takanori MATSUO

1. 初めに

2010年（平成22年）3月、37年間務めた長崎県公立高校を退職した。4月からは長崎女子短大幼児教育科の非常勤講師として勤務。65歳になった2015年年4月からは特別専任教授（現在は特別基幹教授）として勤務することになった。2015年3月、退任される浦川学長が「置き土産としてあなたを特別専任教授に推薦したからね」と言われたときには感謝の気持ちでいっぱいであった。正式の教員としての勤務は10年だが、非常勤を入れると15年になる。この15年間、講義やゼミの担当をさせていただき、高校教諭とは異なる多くの経験をさせていただいた。

この15年間の成果をまとめてみたいと思う。

2. 15年間の成果

（1）調査活動

現職の高校教諭時代から長崎県内の両生爬虫類や哺乳類の調査を行っている。主に、島ごとの動物相の違いを調べている。その中の一部であるが、ニシヤモリの調査結果と新種ゴトウタゴガエルの記載について報告したい。

① ニシヤモリの調査

ニシヤモリ（図1）とは、長崎県の海岸の岩場を中心に生息するヤモリで、熊本県や鹿児島県の一部の島嶼にも見られる。1988年、松尾らにより日本の生物2月号（文一総合出版）に初めて発表された。タイトルは、「五島列島中通島のヤモリの1種」である。同年12月号では、「長崎県にお

けるヤモリ属の1種の新産地」という報告の中でニシヤモリという仮称を使った。その文を記しておくとして「便宜上、このヤモリ属の1種(*Gekko* sp.)」に対し、柴田保彦氏のご教示にしたがってニシヤモリの仮称を与えておく」としている。学名はまだ記載されていないが独立種であることは確実にされており、爬虫類関係の論文や図鑑でもニシヤモリ (*Gekko* sp.) という名称が使われている。

1988年以来、長崎県におけるニシヤモリの分布調査を実施し、その調査は、長崎女子短大に勤務してからも継続している。県本土全域と60数島ある有人島や主な無人島もすべて調査を行い、島ごとのヤモリ属の分布状況を確定していった。その結果は、2017年に長崎県生物学会84号に投稿した。

現在もヤモリ属調査は継続中であるが、ニシヤモリの現状は厳しいものである。外来種であるニホンヤモリの進出により各地でニシヤモリが減少しており、場所によっては全く見られなくなってきた。西彼杵半島ではニシヤモリがいた岩場がニホンヤモリに置き換わっている場所が多数あるし、



図1. ニシヤモリ

島嶼においても同じような傾向がみられる。もしかしたら、長崎県からニシヤモリがいなくなってしまうのではないかと心配している。

② 新種ゴトウタゴガエルの発見

2023年8月25日、日本爬虫両棲類学会の英文誌にゴトウタゴガエルの新種記載論文が発表された。ゴトウタゴガエル(図2)については、長崎女子短大に非常勤として勤務すると同時に調査を本格化したいきさつがある。詳しいことは紀要の49号に書いているので読んでいただきたい。私は、高校教諭をしながらアマチュアの動物生態研究者として活動してきた。長崎県内をフィールドとして歩き回っていたときの2003年、五島列島で不思議なカエルと遭遇した。本来の産卵時期ではないときに産卵するタゴガエルであった。当時、高校の現職教員だったのでなかなか時間が取れず、退職と同時に詳しい調査を開始した。2010年、長崎女子短大に非常勤として働き始めたときである。それから13年後の2023年、やっと、五島の不思議なカエルが新種であるとして記載された。日本名である和名はゴトウタゴガエル(五島列島のタゴガエル)、世界共通の学名は *Rana matsui* である。動物調査をする者にとって、新種を発見することは夢である。さらに、その動物に自分の名前を付けていただけるのは夢のまた夢といえるだろう。*Rana* はカエルという意味、*matsui* というのは松尾のこと。つまり、学名を日本語に訳すと「松尾ガエル」ということになる。記載していただいた江頭氏には感謝の気持ちでいっぱいである。この発表があった後、長崎県のテレビ局5局、そして、新聞社5社から取材を受けた。特に、長崎新



図2. ゴトウタゴガエル

聞には一面で紹介していただきびっくりしてしまいました。日本国内で脊椎動物の新種が見つかるのは珍しいこと。それが、長崎県固有(長崎県にしかない)であることが嬉しくてたまらない。

(2) 相川湿地の整備活動と野外実習

長崎市相川町に休耕田跡の相川湿地(図3)がある。この場所を使い、2004年長崎北高校に勤め始めた時から冬季の野外実習を行っている。目的は大量に産卵されたニホンアカガエルとカスミサンショウウオの卵塊観察である。最初のころは、2月に観察に行くだけでよかったが、湿地の荒廃とともに整備も必要になってきた。長崎女子短大に勤務するようになってからである。整備の当初は、個人で行っていたが少しずつ手に負えなくなり、多くのボランティアにも手伝ってもらうようになった。2025年度の湿地整備は、12月13日に行い、総勢48名の参加があった(図4)。この湿地には、冬季の1月から2月にかけて、絶滅危惧種



図3. 相川湿地



図4. 令和7年度相川湿地整備作業



図5. 幼稚園野外観察会

であるニホンアカガエルやカスミサンショウウオの産卵が見られる。まさに、整備した場所に産卵してくれるので、その卵塊観察をメインに野外実習を行っている。実施する団体は年によって変わることもあるが、幼稚園児（図5）や高校生・大学生以外にも一般市民も対象にしている。このことについては、紀要の41号と47号に詳しく書いているので興味のある方は読んでいただきたい。

（3）著書

2022年（令和4年）4月、『かえる先生のいきもの交遊録』を長崎新聞社から自費出版した（図

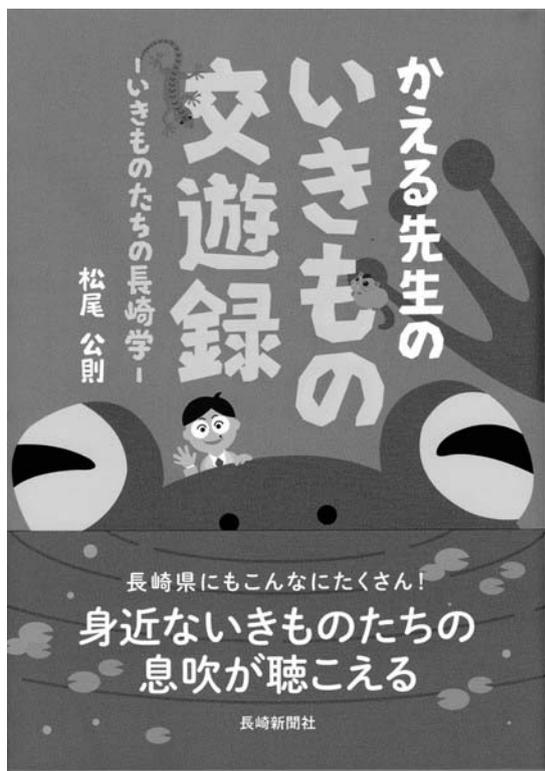


図6. かえる先生のいきもの交遊録

6)。単著で出版した本は3冊目である。この本は、長崎県に生息する多くの動植物を1ページにまとめたもので、両生類35編、爬虫類27編、哺乳類33編、その他の動植物37編の132編について随筆風に解説している。特集も入れて158ページの本である。ちなみに、2005年に「長崎県の両生・爬虫類」、2010年に「長崎県の哺乳類」を出版している。

（4）長崎女子短大紀要に投稿した論文

長崎女子短大紀要には毎年投稿しているが、令和6年度は諸事情により投稿できなかった。内容としては、野外活動の報告やゼミの活動内容・授業での取り組み、調査内容などである。

平成28年度（第41号） 幼稚園での野外観察の実践例（p77-82）

平成29年度（第42号） 特別支援学校でのカエルの授業の実践例（p52-58）

平成30年度（第43号） 長崎女子短大構内の両生爬虫類相（p12-18）

令和元年度（第45号） 『子どもと自然環境』というゼミでできること（p62-71）

令和2年度（第46号） コロナ禍における特別支援学校でのカエルの授業の実践例（p49-67）

令和3年度（第47号） 相川湿地での観察会及び保全活動の実践例（p7-13）

令和4年度（第48号） 講義の実践例—童謡『どんぐりころころ』を考える—（p62-70）

令和5年度（第49号） 新種「ゴトウタゴガエル」記載までのいきさつ（p62-70）

令和7年度（第51号） 長崎女子短大での15年間の研究成果

（5）表彰等

① 令和2年度「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰を受けた。「環境大臣表彰」自然ふれあい部門9件（6個人、3団体）の中の一人である。本来なら、文部省の方に赴き、時の環境大臣小泉進次郎氏から表彰状を受け取る予定であった。しかし、コロナの蔓延により東京での受賞式が中止となり、長崎市役所で当時の田上市長から伝達

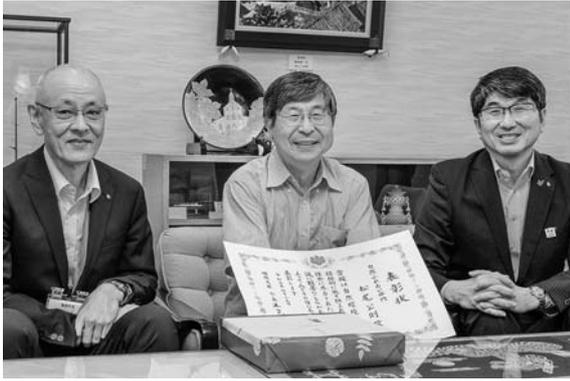


図7. 環境大臣表彰（長崎市役所）



図8. 長崎市功労賞（出島メッセ長崎にて）

表彰を受けることになった（図7）。授賞理由は、「平成5年より、市が保有するビオトープにおける生物多様性確保のための管理手法に関する助言や、自然観察会の実施に取り組むことにより、環境保全活動の普及開発に尽力。」と書いてある。

② 令和7年、長崎市功労表彰を受けた（図8）。保健環境部門の表彰で、表彰名簿には次のように書いてある。「多年にわたり長崎市自然環境調査員として、本市の希少野生動植物等の生息状況調査やレッドリスト作成等に尽力し、本市の豊かな自然環境の保護及び保全に大きく貢献した」。表彰状以外にも、令和7年度の平和記念式典へ参加させていただいたし、おくんち棧敷席の招待券を頂いた。

③ 学校法人鶴鳴学園より学園表彰を頂いた。1回目は、令和2年度環境大臣表彰の際であり、2回目は、令和5年度新種ゴトウタゴガエルの発見に関わるものである。

（6）マスコミ関係

長崎ケーブルテレビのなんでんカフェという番

組の中で、月1本の自然関係の番組を作成し放送している。番組作りは長崎女子短大に非常勤として勤務したときから始まり、15年を経た現在も継続している。長崎ケーブルテレビだけでなく民放のNBCでも放映されている。今年度から2ヵ月に1本というペースになり5本を製作した。今年度の放送タイトルを紹介しておく。

2025年2月27日：植物に魅せられて

2025年3月26日：つぶらな瞳のカスミサンショウウオ

2025年6月9日：川の生きものを食べてみた

2025年10月28日：上流を目指す川の生きもの

2025年11月25日：カエル先生ブログはじめました

（7）ゼミ活動

2015年特別専任教授となってから、「子どもと自然環境」というゼミを担当することになった。毎年、10名前後のゼミ生をあずかり様々な活動を行っている。ゼミ活動は、ゼミの時間だけで完結する内容を考え、研究的なことではなく、保育園や幼稚園に勤めてから役に立つ自然体験が主である。

この10年間、毎年実施していることを紹介したい。

① 英彦山登山（図9）

女子短大近くに英彦山という385mの山がある。4月の最初の活動がゼミ生全員による英彦山登山である。短大から約30分で登山口に着き、そこからゆっくりと40分程度で山頂に着く。約1時間半の登山、学生のほとんどは登山経験がないが、それなりに楽しんで歩いている。登山中、いろいろ



図9. 英彦山登山山頂にて

な草花や動物の話題を出し、自然との触れ合いの楽しさを味あわせたいと努力しているが、学生にはなかなか届かないのがさみしい。しかし、山頂からは長崎の町を一望できる絶景なので、景色を見たとたんに登ってよかったという意見が出る。

② オタマジャクシの飼育 (図10)

オタマジャクシを育てカエルになるまでの飼育体験を実施している。5月の連休後、シュレーゲルアオガエルの卵塊を採集し、ふ化したオタマジャクシを育てカエルに変態させるまでの飼育の経験である。一人1個の水槽に4～5匹の幼生を入れ、毎日の水替えやエサやり、週1回のゼミの時間に観察スケッチを行う。飼育の後半が実習と重なるため、実習期間中は自宅での飼育となる。育てている幼生を実習園に持って行き園児にも喜ばれている。変態後は構内の池付近に逃がしている。オタマジャクシを飼育することにより、生きものを飼う楽しさや不思議さ、大変さを感じてほしいと思っている。



図10. オタマジャクシの飼育 (研究室前)

③ 自然遊び

短大敷地内にあるいろいろな植物での自然遊びを実施している。笹の葉を使っての「ササ船」と「ササ笛」、オナモミの葉を使っての「はっぱの顔」(図11)と「パンという音をだす」、シロツメクサを使っての「花の首飾りや指輪づくり」と「葉っぱぼうず」、などである。ほとんどの学生が経験したことのない自然遊びなので興味深く取り組んでいる。卒業後も、園で活用しているようだ。



図11. オナモミの葉

④ 長崎特別支援学校でのカエルの授業 (図12)

特別専任教授となった2015年から、短大の近くにある長崎特別支援学校で「カエルの授業」を実施している。1年目は計画の段階だったので、今年度は9回目の授業であった。このことは、平成29年度(42号)と令和2年度(46号)の紀要にまとめているので興味のある方は読んでいただきたい。比較的重度の障害を持つ児童に、第一部でカエルの劇とカエルの歌、第二部で本物のカエルとの触れ合いを実施する。児童、先生方、保護者を巻き込んでのカエルの授業。本物との触れ合いの大切さを感じることで、児童にとってもゼミ生にとっても意義のある体験である。



図12. 長崎特別支援学校でのカエルの授業

⑤ 弥生祭

長崎女子短大では毎年10月ごろに弥生祭(学園祭)を開催している。私のゼミも10年前から連続して参加しており、コロナ禍でも参加を継続した。展示内容は主に2つであり、研究室で飼育している動物たちを使ってのミニ動物園とカエルのフィ

ギアを使っでの展示物である。コロナ禍の時は、密になる作業ができなかったので、ミニ動物園だけになった。展示物は、10年間で5作品を作成した。カエルの国の動物園、カエルの結婚式(図13)、東京オリンピック開会式、カエルのひな祭り、カエルの卒業式(図14)である。幼稚園や保育園に勤める学生にとってはいい経験になると思い実施している。



図13. カエルの結婚式(平成30年度)



図14. カエルの卒業式(令和7年度)



図15. ドングリ人形(令和7年度)

⑥ その他

その他にも、学生の希望により多くの自然体験を実施している。種子遊び、ドングリの採集とドングリ遊び、ドングリクッキー作り、ドングリ人形作り(図15)、カイコの飼育などである。

3. まとめ

長崎女子短大幼児教育科に勤務させていただくとき、大きく2つの目標をかかげた。1つ目は自分の調査研究を進めること。2つ目は多くの方々に長崎県の自然のすばらしさを伝えることである。1つ目の研究成果としては、ゴトウタゴガエルの新種記載を成すことができ、研究生活の集大成とすることができた。2つ目の伝えることとしては、長崎女子短大での講義だけでなく、年間20数回の講演活動の中で実施している。講演を依頼される対象は学童、幼稚園や保育園、特別支援学校、小中高等学校、ビジターセンターや各動物施設などであり、いろいろな場所のあらゆる年齢相で講演を行っている。講演スタイルとしては、必ず本物のカエルたちを持参し、本物と触れ合いながらの話である。本物の生きものたちを見たり触れたりする講演は、幼稚園児からお年寄りまで十分に楽しんでもらっている。本物を見て、本物に触れながらの講演が私の理想である。年齢とともに調査活動は難しくなっているが、伝えるという講演活動はこれからも続けていきたいと思う。

4. 引用文献

- 松尾公則・江島正朗(1988)長崎県におけるヤモリ属の1種の新産地. 日本の生物, 2(12):56~58
- 松尾公則・江島正朗・松永邦輔(1988)五島列島中通島のヤモリ属の1種. 日本の生物, 2(2):61
- 松尾公則(2019)長崎県に生息する4種のヤモリ属. 長崎県生物学会誌, 84:33~38
- Eto, M. and Matsui, M. 2023. A new brown frog from the Goto Islands, Japan with taxonomic revision on the subspecific relationships of *Rana tagoi* (Amphibia: Anura: Ranidae). *Current Herpetology* 42: 191-209
- 松尾公則(2024)新種「ゴトウタゴガエル」記載までのいきさつ, 長崎女子短期大学紀要, 49:22~26